

小学校 道徳 部会

部会長名 大任町立今任小学校 校長 植村 徹也
実践者名 福智町立伊方小学校 教諭 中野 弦己

1 研究主題

「多面的・多角的」な考え方を育てる道徳科学習指導の研究
～多様な価値や考え方を認め合う指導方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と新学習指導要領の動向から

平成23年に滋賀県大津市で発生した、いじめを苦にした中学2年生の自殺事件は社会に大きな影響を与え、それが契機となり平成25年議員立法により成立したいじめ防止対策推進法基本的施策の冒頭には、道徳教育の充実が盛り込まれた。平成27年に小学校学習指導要領の一部が改正され、従来の「道徳の時間」が「特別の教科道徳」として教育課程上に新たに位置付けられることになる。

子ども達が直面する今後の社会は、少子高齢化による生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能(AI)の進化などによる雇用情勢の変化、未曾有の自然災害の発生など、予測困難な時代になることが予想される。そのような中、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展との調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。

学校教育においては、今回の学習指導要領の改訂にあたり、子ども達に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」、知識の理解の質をさらに高めた確かな学力の育成、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成することが述べられた。道徳の時間においては、道徳教育の質的転換が提言され、登場人物の心情理解中心の「読み物道徳」から脱却して「考え、議論する」道徳科へと転換し、自分ならどのように行動・実践するかなど道徳的諸価値について多面的・多角的に考えさせ、実践へと結び付け、更に習慣化していく指導へと転換することが目指されている。

以上のことから、新学習指導要領の全面実施を受け、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図る上で意義深いと考える。

(2) 本学級の実態から

本学級は、男子14名・女子14名、計28名の学級である。学習意欲が高く、話し合ったり学び合ったりする対話的な学習に進んで取り組むことができる。しかし、自分なりの考えを明確に持つことに苦手意識を感じる児童が多く、交流活動の中でも友だちの意見に同調するあまり、多様な意見を追及したり認め合ったりすることが不十分であると感じる。自分と異なる意見に向かい合い議論するとき、相手の思いを認め合い、多面的・多角的に考えていく中で、道徳的価値の理解を深めたり広げたりして見方・考え方を発展させていきたい。

3 主題の意味

(1) 「多面的・多角的」とは

平成29年3月31日告示による学習指導要領全面改定後の「特別の教科 道徳」の目標では、従前の「道徳的諸価値についての理解を基に、自己の生き方についての考えを深め」ることの学習活動を具体化して「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と改められている。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・特別の教科道徳編では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が、多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることの重要性が述べられている。また、このように多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、さらに自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育むのであるとされる。

「多面的・多角的」に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが求められる。

そこで、本研究主題における「多面的・多角的」とは

① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそれに伴う心情を様々な視点から捉え感じようとしていること

② 自分と違う立場や考え方や感じ方を理解しようとしている。

（例：立場を変えてみると、時間を変えてみると、他の道徳的価値から考えると）

以上の二点に焦点化し、実践を行っていく。

(2) 「多様な価値や考え方を認め合う指導」とは

現代の子ども達には、今後、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きる事が求められる。時には対立がある場合を含めて、様々な価値観をもつ他者と対話し、協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を育成することをあらわす。

4 研究の目標

道徳科において、新学習指導要領が目指す「多面的・多角的」な考え方を育成するための授業改善について究明する。

5 研究仮説

多面的・多角的な教材分析とともに、対話的な「学び方」を工夫すること、また、多様な価値をふり返る活動をもとに授業改善の実践研究を進めていけば、児童が新学習指導要領の目標で定められている「多面的・多角的」な考えを身につけることができるであろう。

(1) 教材文の中から、多面的・多角的な価値を授業者自身が把握できるように、独自の教材研究シートを作成し、活用する。

(2) 児童が多様な感じ方や考え方に接することができるように、対話的な学習方法や、表現活動の工夫を行う。

(3) 学習後に書いた子ども達の感想の中から、多面的・多角的な学びを価値付けることができるように、ふり返りの時間を設け子ども達の気づきを共有する時間を設ける。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 主題「美しい心」（第6学年） 内容項目：D 感動 畏敬の念 資料名「青の洞門」

(2) 主題の目標及び指導計画

主題		美しい心	総時数 2時間	時期	11月
主題の目標		○ 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を持つことができる。			
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点	
1	1	感動したことやすごいと思った人についてふり返ることができる。	「感動・畏敬の念」に関するアンケートを実施する。	どんなことで感動したり、どんな人をすごいと思ったりしたのかを具体的に記述させる。	
	2 (本時)	了海に対する実之助の心の変容を考える活動を通して、美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念を持つことができる。	読み物資料を通して、了海に対する実之助の心の変容を自分に置きかえてとらえる。	実之助の心の変容を自分に置き換え、ネームプレートをもとに自分の立場を友だちと交流させる。 多面的・多角的な視点から児童の感想を交流させる。	

(3) 教材について 資料名「青の洞門」

父が殺され、仇をとろうと20年間も了海を追い続けてきた実之助が、了海（父を殺害した当本人）と出会う。しかし、そこで目にした了海は、自分の罪を償うために、何人も人が命を落としている岸壁に洞門を掘り、命を救おうと決意を固めていた。ぼろぼろにやせ細っても作業を続けること21年、了海はついに洞門を貫通させることに成功する。長年の償いを形に残すことができた了海は、実之助に自分を切れとせまる。しかし、実之助は、自分の身を削りながらも多くの命を救いたいという思いを貫こうとした了海の美しい心に感動し、手を取り合って涙を流す。復讐心を忘れ、感激した実之助の心を捉えさせ、美しい心に感動する心情を育てたい。

(4) 本研究との関わりについて

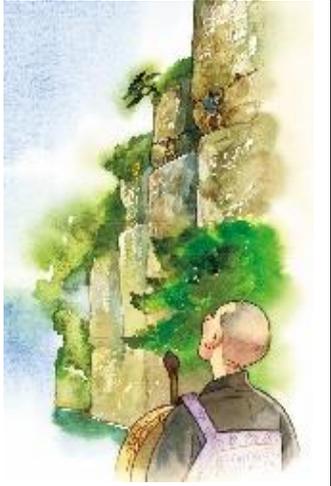
人は、人間のもつ心の崇高さや偉大さに感動したり、真理を求める姿や自分の可能性に挑戦し続ける人間の姿に心を打たれたりする。崇高で偉大な心に触れたとき、人間は自分を小さい存在かのように感じる。自分がこれまでに悩んできたこと、苦しい

んできたことがちっぽけでささいなことであると感じることができる。

しかし、そのような場面を経験している児童は殆ど存在せず、実之助の気持ちを考えることを非常に困難であろう。本教材を現実離れした話だと思わせないためにも、対話的な学習方法や、表現活動の工夫を行い、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、本時のねらいを捉えるようにしていきたい。

また、本教材は、復讐心を忘れ感動した実之助の心情、また一方で、復讐心を忘れさせた了海の不屈の精神など、理解が進むにつれ多面的・多角的な視点で捉えることのできる価値が多く存在する。研究仮説で定めた三つの手立てをもとに、これらの価値を捉えさせ本研究のねらいにせまりたい。

7 指導の実際

学習活動および教師の働きかけ	児童の反応
<p>【導入】</p> <p>1 アンケート結果をもとに、価値の方向付けを行い、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 美しい心を持った人間の素晴らしさについて考えよう。</p> </div> <p>【展開前段】</p> <p>2 教材「青の洞門」を読み、話し合う。</p> <p>(1) 状況の把握を行う。</p>	<p>〈児童のアンケート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会のマスゲームに感動した。 ・ サッカーの選手や、オリンピックに選手が頑張っていると感動する。 ・ 歌を歌っている人に感動する。 <p>〈児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青の洞門に実際に行ったことがある。 ・ 岩がごつごつしていて彫るのは大変だと思う。
<p>〈登場人物〉 ・ 実之助 ・ 了海 ・ 村の人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>じつのすけ 実之助</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>りょうかい 了海</p> </div> </div> <p>〈条件・状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 了海は実之助の父を過去に殺している。 ・ その罪を償うために、何人もの人が命を落としている岸壁に洞門を掘ることを決心する。 ・ 一年掘り続けて、三メートルしか進まない。 ・ 実之助は、了海を憎み、仇を討ちたいと思っている。 	
<p>(2) 実之助の心情の変化を追う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>実之助は、了海を見つけたとき、どんな気持ちだったでしょうか。</p> </div>	<p>〈児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この人が父親を殺したのか。 ・ 探したぞ！ ・ やっと見つけたから仇をとってやる。

- 実之助のもつ憎しみの深さを理解できるように、9年間も探し続けたことや、仇討ちについての歴史的背景（当時は、仇討ちをしないことがかえって不名誉なことであったこと）を説明する。

道ができるまで命を取るのを待ってほしいという了海の願いを聞いたとき、実之助はどんな気持ちだったのでしょうか。

- 実之助の気持ちの変化がとらえられるように、了海の願いの強さや村人の思いにふれる。

- (3) 実之助が仇を討たなかったことについて考える。

了海に「お切りになされ」と言われて、刀を置いた実之助にあなたは共感しますか。それともしませんか。

- 自分の心情の様子を表現できるようにネームプレートを使って、黒板に貼らせる。



【写真 1】ネームプレートを使った表現活動

- 自分がなぜそう答えたのか理由を答えさせる。意見が変わった児童は、ネームカードを動かしてもよいことにする。

- ・ほとんどの児童が、親を殺された実之助の立場に共感していたが、次第に了海の行動に共感を示すようになる。

〈児童の反応〉

- ・せっかく見つけたのに待てるはずがない。
- ・村人たちは、なぜ了海をかばうのか。
- ・そうか、了海のやっていることは、村のためになるのか。
- ・実之助に共感できると答えた児童は、75%、共感できないと答えた児童は25%であった。



〈児童の反応〉

- ・やっぱり実の父親を殺されているから許せない。
- ・たくさんの人を救うために命をかけて頑張っているのだから自分は実之助に共感する。
- ・自分だったら、なんだかんだいっても切ることはできないと思う。⇒償い続けているから。（つらぬかれた思い）
- ・仇を討つことが本当に大切なのか分からなくなった。
- ・許せないけれど、殺すことはできない。
- ・一緒に洞くつを彫ってみて、どれだけ大変なのかが分かった。

何が、実之助の気持ちを動かしたのだろう。

- 実之助の復讐心を忘れさせた了海の行動にせまる。
- 実之助の気持ちを動かした了海の姿にせまることができるように、グループで意見を交流する。

【展開後段】

- 3 本時学習のふり返りを行う。
 - (1) 本時学習で学んだことや自分の考えが変わったことなどを道徳ノートに書かせる
- 多面的・多角的な視点から、子ども達の感想を取り上げ、全体場で価値付けを行う。

【終末】

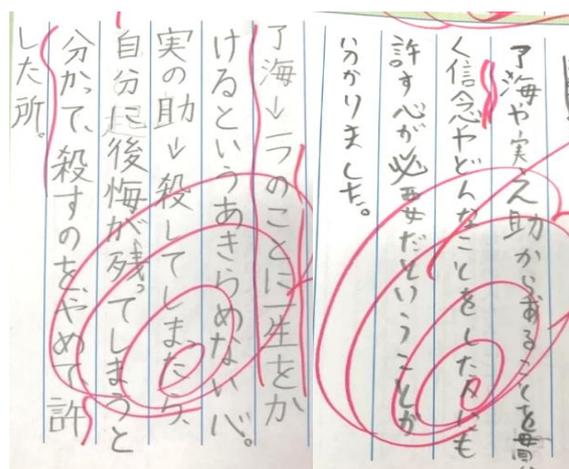
- 4 人の行為に潜む美しさに感動した教師の説話を聞かせ学習を締めくくる。

〈児童の反応〉

- ・償うことをあきらめなかったこと。
- ・つらぬかれた思いが実之助の心を動かした。
- ・自分には、まねができないことだと思ってだんだん尊敬するようになった。

〈児童の感想〉

- ・一生をかけて洞門をほることをあきらめなかったところがすばらしい。
- ・了海の行動は、たくさんの人の命を助けたから実之助は諦めたのだと思う。



【写真 2】 児童の感想

8 本研究のまとめ

本研究の仮説（1）の教材研究シートについて考察する。

道徳教材研究シート『青の洞門』 6年
中野 弦己

場面分析			
<p>了海…実之助の父を殺している。 実之助…父を殺されたことからふくしむ心もち、了海をうらんでいる。 切らうとしている。</p>	人間的な弱さ もろさ	回転軸	<p>実之助が真夜中に了海をやめようとするも、了海は念仏をとなえながら一人でうちをふっている。 ↓ 実之助の決心をうすめさせる。</p>
<p>ともに不眠不休でうちをふり、二十一年の念腹を果たす。</p>	価値覚醒	価値納得	<p>このかぎりいうてにふてなしにけられた偉業に対するおどろきと感激の心でいっぱいになる。 →二人で感激の涙を流す。</p>
<p>「多面的な視野からみる価値」 ・自分の罪のつぐない方を了海は必死にもとく…洞門をほることで何千人の命をすくうことができる。 実現の難は <u>村人からは笑われる</u> <u>9年で40mしか掘れない</u> <u>顔は青くあ、目はおちこ</u> <u>実之助から殺れ</u> <u>そらになる</u> ↓ でも最後まで掘ることをやめなかった。</p>			
<p>「多角的な視野からみる価値」 (立場を変えてみて) (時間を変えてみて) (見方を変えてみて) (価値を変えてみて) (自分だったら) (その行動がないとすると) 等 実之助の立場から考えると、了海は果てしないつぐないに感動する心を持っていた。 実之助は、了海を殺すことが、本当にためになることではないと気付いた。 もし了海につぐない続ける心がなかったら、実之助も罪を犯していた。 <u>寛容の心</u> <u>実之助</u> <u>親を殺す本意に</u> <u>自分自身を許す</u></p>			

【写真 3】独自の教材研究シート

授業前の準備として、独自で教材研究シートを作成し、教材文の中に読み取れる多面的・多角的な価値をまとめた。事前に整理しておくことで、学習の感想を書かせたときやふり返りをした際に、素早く意見を分類し、価値付けを行うことができた。また、揺さぶりの発問をしたり、ねらいとする価値にせまったりする際にもこのシートを有効に活用することができた。

次に、本研究の仮説（2）の対話的な学習方法や、表現活動の工夫について考察を行う。新学習指導要領で示された対話的な学びとは、次の三つである。

- ・子ども同士で協働（協力して共に学習を進める）
- ・教職員や地域の人との対話
- ・先哲の考え方を手掛かりにする

学習の中では、ホワイトボードを使って意見を出し合ったり、ブレインストーミングで直感的な意見も多く取り上げたりして子ども同士の協働に重きを置いた。特に、子ども達が意欲的に取り組んだのは、「もしも、自分ならどうするのか。」という問いに関しては、立場ごとに班を作り、ホワイトボードで意見をまとめる学習であった。心情図では、細かな心情の変化が表現できたが、本学級の実態から、立場や意見が明確に示されるホワイトボードやネームプレートの方が意欲的に取り組むことができた。



【写真 4】ホワイトボードの利用

最後に、本研究の仮説（3）多面的・多角的な学びを価値付けるふり返り活動について考察する。ふり返り活動は、次のような二段階で行った。

第一段階・・・学習の終末に、本時の感想や反省を発表させ、価値付ける。

第二段階・・・児童が書いた感想を授業後にじっくりと読み、多面的・多角的な視点からいくつかの感想を教師が選び、帰りの会での教師の話や、次の学習の冒頭で紹介する。

二段階でふり返ることで、子ども達の意見をしっかりと価値付けすることができた。また、全員の前で称賛することで、意欲的に感想を書く児童が増えた。本研究で取り組んだことの中で最も効果があらわれた取り組みとなった。

9 成果と課題

【成果】

- 教材に含まれる多面的・多角的な価値を授業者自身が把握することは、教材研究上大変重要な事であることが理解できた。子ども達の多様な意見をすっきりと分類・整理し、適切に価値付けることができた。
- 対話的な学習方法や、表現活動の工夫を行うことで、児童が多様な感じ方や考え方に接し、少しずつ相手の意見や立場を尊重することができるようになった。また、子ども同士で協働することで自分の意見や立場がはっきりすると、子ども達はこれまでに以上に意欲的に学習することができた。
- 子ども達が書いた感想をもとに二段階でふり返り活動を設定することで、意欲的に感想を書く児童が増え、多面的・多角的な視点で子ども達の意見を価値付けることができた。また多様な価値や考え方に会ったときに、拍手をしながら相手の意見を理解しようとする児童の姿が見られた。
- 道徳ノートを活用することができた。

【課題】

- 多面的・多角的な視点を捉え間違えると、学習のねらいから外れてしまうことがあったので、的確な教材把握と発問計画を練ることが必要である。
- 文章による表現が苦手な児童に対し、学習方法や発問の工夫が必要である。

◎参考文献・資料

- ・ 小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編
- ・ 小学道徳生きる力⑥ 教師用指導所～研究員～ 日本文教出版
- ・ 道徳教育実践ハンドブック（改訂版） 福岡県教育委員会
- ・ 筑豊教育事務所 手嶋圭吾指導主事 研修資料